琉球大学学術リポジトリ

大学生の学習技術の実態（その4）：実技系学生に見られる学習技術の特徴

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西村, 貞雄, Nishimura, Sadao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/944

大学生の学習技術の実態(その4)

═実技系学生に見られる学習技術の特徴═

西　村　貞　雄

Research on the Actual Condition of the Effect of Learning Skills on the Students in the College of Education
Part 4
——A Few Peculiarities in Student's Demonstration Project Course ——

Sadao NISHIMURA
(Received July 10. 1981)

I　調査目的

琉球大学教育方法改善プロジェクトでは今回学生の学習技術の実態調査を行なった。それを基にして実技系学生（音楽・美術・体育）の学習への取り組み方を明らかにしたい。

II　調査方法

1．調査形式

調査質問は、A・　・Cに大別され、その内Aは、東京工業大学坂元昂研究室で考案作成された学習技能調査表をプロジェクト作間委員会および幹事会で検討、修正したものであり、BとCは自由記述とした。

2．調査対象

教育学部全学生　948名

3．調査用紙の配布・回収方法

教職関連科目の中で、受講者30名以上のクラスにおいて、授業終了時に無記名で記入させ、該当科目担当教官が回収し、残りの学生は、各学科ごとに調査紙の配布、回収を担当幹事が行なった。

4．調査時期

昭和55年12月18日～12月26日

5．回収率

53.5%（回収数548、配布数948）

III　調査結果

1．音楽・美術・体育の総合特徴

音楽・美術・体育の学生の平均的像は、全体平均とあまりかわらず、質問Aでよくしていると答えた項目を上位10項目とり上げてみると、順位は違うが同じ設問が10位まで占めている。

① 線や印をつけて覚えています。　67.4%
② 大事だと思うところに印をつけたり、線を引いたりして読んでいます。　65.1%
③ 線を引いたりして調べています。　62.8%
④ 相手を見ながら聞いています。　59.7%
⑤ 大事だと思うところは熱心に聞いています。　58.9%
⑥ どうしてもひとりで考えてわからなければ、答えをみて解いています。　55.0%
⑦ やさしい問題から順に解いています。　51.2%
⑧ 教科別にノートの種類を分けて書いています。　50.4%
⑨ 辞書や事典をひいて調べています。　42.6%
⑩ メモをとりながら聞いています。　39.5%

上位10の設問をあげてみると以上のようになっていて、1～3位を「線や印をつけて」という項目がしめていることが目につき、覚える、読む、調べるの三分野で「線や印をつける」がよく行なわれていることがわかる。又聞くの項目が三種類入っていることは、授業中学生が、注意深く講義を聞いていることを表わしていると思われる。しかも分野別に見ると上位10位以内に、聞く—3項目、解く—2項目、調べる—2項目、書く—1項目、読む—1項目、覚える—1項目と全分野の項目が入っていて、いずれにもかたよらないバランスのとれた勉強が行なわれていることが表われている。

次にやはり質問Aでしていないと答えた項目を同じく10位まで挙げると、

① 似たような問題を作って解いています。 94.6%
② 録音して覚えています。 93.0%
③ ノートの一方のページに授業、反対のページに考えを書いています。 91.5%
④ ノートを2冊作って授業用とまとめ用に分け使っています。 89.2%
⑤ カードに書き出しながら読んでいます。 86.1%
⑥ 大事だと思うところをカードに書いて覚えています。 84.5%
⑦ 主語・述語というように文を細かく分けて読んでいます。 83.0%
⑧ 友達と競争しながら解いています。 83.0%
⑨ 覚えたと思うところは塗りつぶしています。 82.2%
⑩ 本を読む時、計画を立てて読んでいます。 72.9%

となっていて、分野別では覚える―3項目、読む―3項目、解く―2項目、書く―2項目となる。聞くと調べるの項目に該当するものは入っていず、主に授業時間以外の学習に関するものが見うけられる。2位になっている「録音して」はしている人が、数学・音楽・美術・体育・技術にだけみられるので、全体では1位であるが、ここでは2位になったと思われる。全体では、10位に入っている「友達とクイズしたり競争したりして覚えています」がなくなり、かわりに、「本を読む時、計画をたてて」が入っている他は、よくしていると同じように全体平均と、音楽・美術・体育平均の項目は順位が入れ変っているだけで、大差はないといえる。

2．音楽・美術・体育各科にみられる特長

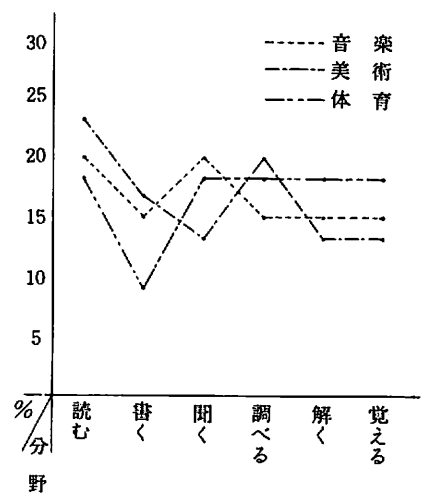
（1）音楽の特長

音楽では、質問Aでよくしているとあげている割合が30%以上のものをとりあげると20項目となる。

① 線や印をつけて覚えている。 81.0%
② 大事だと思うところに印をつけたり、線を引いたりして読んでいます。 76.2%
③ 大事だと思うところは熱心に聞いています。 73.8%
③ 教科別にノートの種類を分けています。 71.4%
⑤ 線を引いたりして調べています。 71.4%
⑥ 相手を見ながら聞いています。 69.1%
⑦ メモをとりながら聞いています。 59.5%
⑦ どうしてもひとりで考えてわからなければ、答をみて解いています。 59.5%
⑨ やさしい問題から順に解いています。 52.4%
⑩ 本の中に記入しながら読んでいます。 47.6%
⑪ 要点をまとめて書いています。 45.2%
⑪ ノートにすきまをとって書いています。 42.9%
⑪ 辞書や事典をひいて調べています。 42.9%
⑭ 一度めはざっと目を通し、二度めはていねいに読んでいます。 42.9%
⑮ 解けたもの、解けなかったものに印をつけています。 40.5%
⑯ 要点をおさえながら読んでいます。 38.1%
⑰ 自分の身近なものに関係づけて覚えています。 35.7%
⑱ 問題の要点をおさえながら読んでいます。 33.3%
⑱ 要点をおさえながら聞いています。 33.3%
⑱ 大事な順に覚えています。 33.3%

内容を分野別にとりあげると、覚える―3項目（15%）、読む―4項目（20%）、聞く―4項目（20%）、書く―3項目（15%）、調べる―3項目（15%）、解く―3項目（15%）となっている。

（グラフ①）



これを見ると音楽では、読む、聞く、書くの割合が多く、このうち聞くは質問に５項目あるうちの４項目が入っているわけで大変高い率となっている。ここに入っていない残りの項目は、「わからない時は先生に聞いています。」というもので、他の聞くの内容が先生の講義を聞いている時の態度であるのに対して、これは学生から先生への質問の項目であり、他の４つとは意味あいが違うために、低率になったと思われる。音楽でも、音楽・美術・体育平均と同じように、「線や印をつけて」という項目が上位２つを占めているが、４位に「教科別にノートの種類を分けて書いています。」が入って、書くことをある程度熱心に行なっていることがわかる。三・六・七位には、先ほどもあげた「聞く」の項目が入り、聞くことが重要視されているといえる。また「要点をおさえて」という項目が４つも入っていて、これと「大事な順に」「線や印をつけて」「メモをとりながら」「大事だと思うところ」等をあわせると、主要なものをピックアップするやり方が半数を占め、学生が要領のいい勉強のやり方を好んでいることがうかがえる。これは他の「どうしてもひとりで考えて」や、「やさしい問題から順に」「一度目はざっと目を通し」にも共通して言えることである。８位に入った「どうしてもひとりで考えて」や、先ほど述べた「聞く」分野で、質問Ａの解答率30%以上に入らなかった「わからない時は先生に」やその他、人との関わりあいに関する項目がこの表から抜けていることを考えあわせると、学生は予習復習を、自分一人でやり他の人に聞くよりも辞書や事典を引いて調べる方を好んでいるようである。「調べる」「解く」の項目がそれぞれ３つきり入っていないことは、問題に60項目中「調べる」10項目、「解く」９項目もあるとこからみると随分と少ないと言える。しかも入っているものはどちらかといえば手間のかからないものばかりで、「似たような問題をつくる」とか「計画的に」というようなものが入っていない。しかも「友達と一緒に」なども抜けていることをみると、友達とは遊びのためにあるもので勉強のためにあるものではないとの意識がうかがえる。しかし、音楽は他の科に比べるとしていると答えた者の率が高く、１位は81.0%、５位までが70%以上である。

（２）美術の特長

美術は、質問Ａでよくしていると30%以上の人が答えた項目が30と音楽・美術・体育の中で一番多いが、解答率は最高で72.5%と音楽よりも低く30～40%台で$\frac{3}{4}$以上を占めている。

① 線を引いたりして調べています。 72.5%
② 線や印をつけて覚えています。 70.0%
③ 大事だと思うところに印をつけたり、線を引いたりして読んでいます。 65.0%
④ 大事だと思うところは熱心に聞いています。 62.5%
⑤ 相手を見ながら聞いています。 55.0%
⑤ 辞書や事典をひいて調べています。 55.0%
⑦ どうしてもひとりで考えてわからなければ、答をみて解いています。 52.5%
⑧ 要点をまとめて書いています。 50.0%
⑨ 本の中に記入しながら読んでいます。 47.5%
⑨ やさしい問題から順に解いています。 47.5%
⑨ 教科別にノートの種類を分けて書いています。 47.5%
⑨ 何か調べるときは、自分のアイデアを大事にしています。 47.5%
⑬ 要点をおさえながら読んでいます。 45.0%
⑬ 自分で要点を短い文章にまとめて覚えています。 45.0%
⑬ ノートにすきまをとって書いています。 45.0%
⑬ 自分の身近なものに関係づけて覚えています。 45.0%
⑰ メモをとりながら聞いています。 42.5%
⑱ 要点をおさえながら聞いています。 40.0%
⑲ 他の内容と関連づけて調べています。 35.0%
⑲ 本を読む時は、身近なものを連想するるようにしています。 35.0%
⑲ 大事な順に覚えています。 35.0%
⑲ 解けたもの、解けなかったものに印をつけています。 35.0%
⑲ 一度目はざっと目を通し、二度めはていねいに読んでいます。 35.0%
⑲ 毎週一冊以上本を読んでいます。 35.0%
㉕ わからなかったところを調べています。 32.5%
㉕ わからなかったところはわかるまで読んでいます。 32.5%
㉕ メモをしながら調べています。 32.5%
㉘ 文を読みながら書き写しています。 30.0%
㉘ 問題の要点をおさえながら解いてい

ます。　30.0%

㉘　わからなかったところを書き出しています。　30.0%

上位のものは音楽とあまり変らないが、6位に「辞書や事典を」が55.0%で入り、全体平均の41%よりも14%も高い割合となっている。質問の分野ごとに分けてみると、覚える―4項目（13.3%）読む―7項目（23.3%）、聞く―4項目（13.3%）、書く―5項目（16.7%）、調べる―6項目（20%）、解く―4項目（13.3%）、調べるの分野が6項目入っていて目につく。（グラフ1参照）1位も「線を」という点では音楽と同じであるが、音楽が覚えるなのに美術は調べるである。質問Aで30%以上の解答率に入っていないものでも、「テレビや実物を見たりして」「図や表にしながら」等は他の科の学生よりも高率の回答があり、特に「テレビ」は平均が6.9%なのに対し25%となって大きな開きを見せている。9位の「何か調べる時は自分のアイデアを」も平均が29.7%なのに美術は47.5%で大きな差があり、自分の意見を重視しているように思われる。美術では、この調べる分野に関連する「わからなかったところはわかるまで」「わからなかったところを書き出して」なども30%以上の回答率をみせており、学校での勉強だけでなく学生が自主的に勉学している姿を浮かばせている。この他にも「毎週一冊以上本を」「自分で要点を短い文章にして」「他の内容と関連づけて」等積極的な学習態度がうかがえる設問に回答が高くなってくることが、他の科よりも多く目につく。

（3）体育の特長

体育の場合は、質問Aでよくしていると答えた者30%以上の項目が11と他の科よりも少なくなっている。また率も最高が55.32%と目立って低くなっている。内容を分野別に見ると、聞く―2項目（18.2%）、読む―2項目（18.2%）、解く―2項目（18.2%）、覚える―2項目（18.2%）、調べる―2項目（18.2%）、書く―1項目（9.1%）となっていてバランスは一応とれているといえる。（グラフ1参照）

①　相手を見ながら聞いています。　55.3%

①　大事だと思うところに印をつけたり、線を引いたりして読んでいます。　55.3%

③　やさしい問題から順に解いています。　53.2%

③　どうしてもひとりで考えてわからなければ、答をみて解いています。　53.2%

③　線や印をつけて覚えています。　53.2%

⑥　線を引いたりして調べています。　46.8%

⑦　大事だと思うところは熱心に聞いています。　42.6%

⑧　本を読む時は、身近なものを連想するようにしています。　36.2%

⑨　大事な順に覚えています。　34.0%

⑨　教科別にノートの種類を分けて書いています。　34.0%

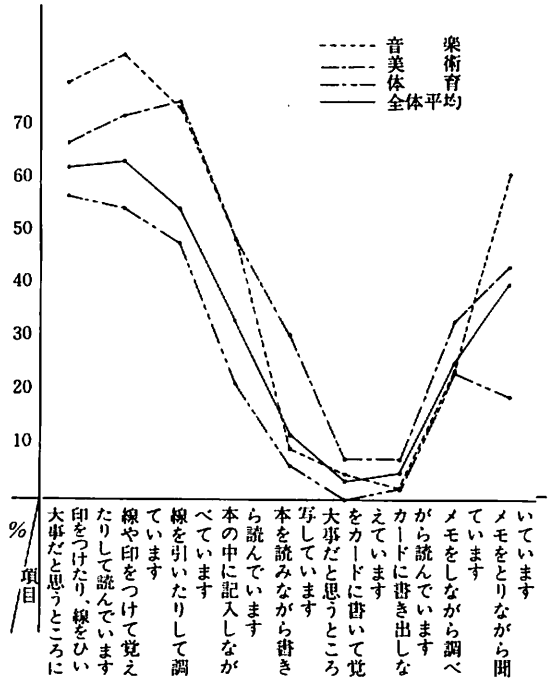
⑪　辞書や事典をひいて調べています。　31.9%

3．項目別の特長

（1）「書く」ことについて

ここでは単に「書く」分野の項目だけでなく、「調べる」「覚える」等他の分野の項目の中からも書くことが入ったものを取り上げて比較してみる。

（グラフ②）



「線や印をつける」は3項目とも音楽・美術で高い率を示している。しかし本の中に記入するとなると同じ本を読むの項目でも、線や印をつけるよりどの科も20%以上率が下がり、さらに読みながら書き写す、カードに書くとなると又10%以上も下がっている。書き写す、カードに書くでは10%を割って音楽・体育は平均よりも低くなってお

り、線や印をつけると字を書くの分野間の差がはげしい。美術は書き写すの方が線や印よりも大分少ないが、音楽ほどの差はついていない。しかしカードをつかう項目は二つとも他の科とあまり差がなくなっている。メモや記入しながらに関する項目では、「メモをとりながら聞いていますか」「本の中に記入しながら読んでいます」よりも少しではあるが高率を示しており、「メモをしながら調べています」は低くなっている。その中で体育だけは、「調べています」が「記入しながら」や「聞いています」よりもわずかながら高率になっている。カードに書く項目は、すべての科で著しく低率を示しており、特に「カードに書いて覚えています」では体育は０％となっている。

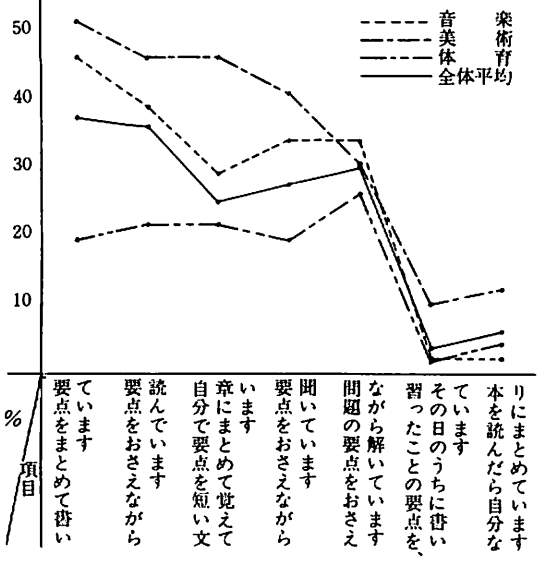
（２）要　　点

要点では、「解いています」を除いて残りはすべて美術が１位である。他の学科もそうであるが、音楽は他の項目の率が比較的に高いため「その日のうちに書いています」「自分なりにまとめています」の２項目の率の低さが目立っている。この２項目では美術だけが10％以上になっており、音楽・体育が５％未満なのに対比をしている。いままで述べたことでもわかるように、「書く」、「読む」、「覚える」、「聞く」、「解く」はいずれもある程度の線を維持しているが、要点の中でも特に手間のかかると思える「その日のうちに」と「自分なりに」は、やっている者がほとんどいない状態で、学生の勉強態度上留意しなければならない点ではないか。

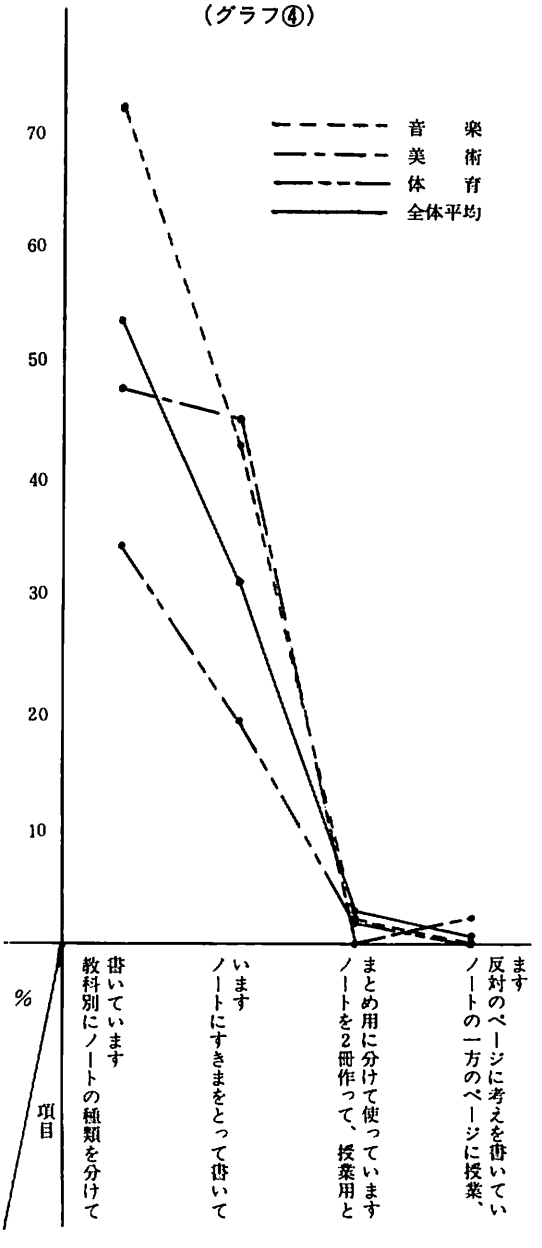
（３）ノ　ー　ト

ノートの書き方を見ると音楽は、「ノートの種類を分けて」が多くなっている。体育も音楽のように率が高くないが、やはり他の項目に比べると多くなっている。しかし、美術では「ノートの種類を分けて」と「ノートにすきまをとって」と、あまり違わない率となっている。この２つが、音楽・

（グラス③）



（グラフ④）



美術・体育のどれでも大部分を占め、残る２つの項目「ノートを２冊作って」と「ノートの一方のページに」は、やっている人がかなり少なくなっている。「教科別にノートの種類を分けて」というやり方は、小学校以来やりつづけている方法で一位になるのが当然といえば言える。また２位の「すきまをとって」も、そのやり方の延長で自然にできることである。それに対して「授業用とまとめ用に分ける」はノートを２冊使う手間がかかり、しかも授業時間以外に復習を必ずすることが前提になっている。「一方のページに」は、ノートを２冊に分けることはなくても、やはり復習をし、自分の考えをまとめることが必要となってくる。この自分で考えまとめるということが、前二項目では行なわれなくてもすむため、このように差がでているのではないか。

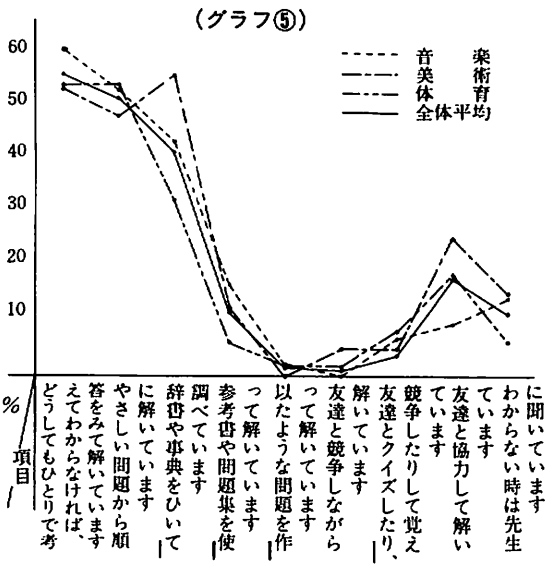
（４）疑問、設問のとき方

ここでは主に問題を解くときの対応方法を見るが、「答を見て」「やさしい問題から」が上位を占めている。これは大学入試までの勉強方法がそのまま反映されていると見ることが出来るが、同じように受験勉強中やったと思える「参考書や問題集を使って」は、している者が20％以下になっている。又「似たような問題」は、美術などは０％、他の科も５％未満と極端に低くなっている。問題を解くのと直接にはつながらないが、「辞書や事典」が30％以上、特に美術は55％にもなっているのと比較すると、参考書等が使われなくなった事が目をひくが、これは今までの勉強の反動ともうけとれる。友達と一緒にということでは、「競争しながら解く」や、「クイズしたり競争したりして覚える」は、すべての科が10％に満たず、音楽では前問には１人もしている人がいない。これに比べると「友達と協力して」はしている数が多く、学生は競争よりも協力の方が好きなように見える。この「協力して」と「わからない時は先生に」を比較してみると、美術と体育では「協力して」の方が高くなり、「先生に」は低くなっている。これは全体平均でも同じ傾向であるが、音楽は反対に「先生に」の方が「協力して」よりも高くなっている。

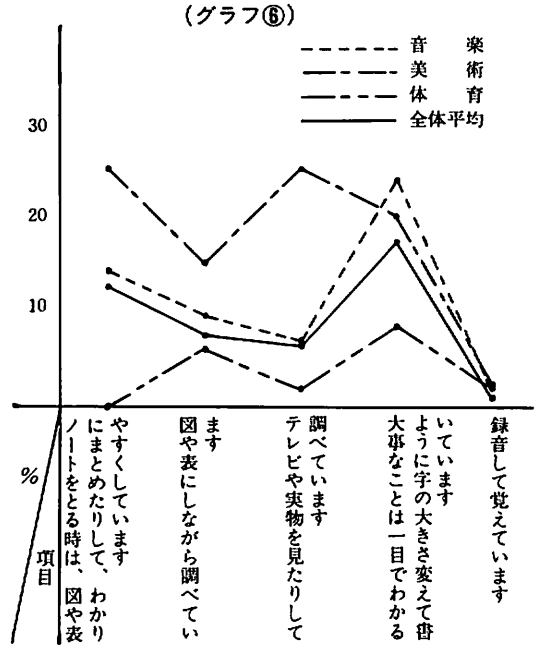
（５）字以外の要素

調べたり、覚えたりする時、わかりやすいように図や表その他字とは違うものを使うことが多い。図や表、写真等は本にもよくのっており、皆親しんでいるはずだが、何れもあまり高い比率を示していない。中では美術が他よりもよくしているが、これは美術という専攻からも他の学科の学生より、図表を作ることが得意でありかつまた必要があることの表われと思える。これは「テレビや実物を見たり」にも言えることで、画集・展覧会・テレビの美術番組等が、演奏会等より数多くあり、また金銭面でも容易に手に入れることが出来る一方、

（グラフ⑤）



（グラフ⑥）

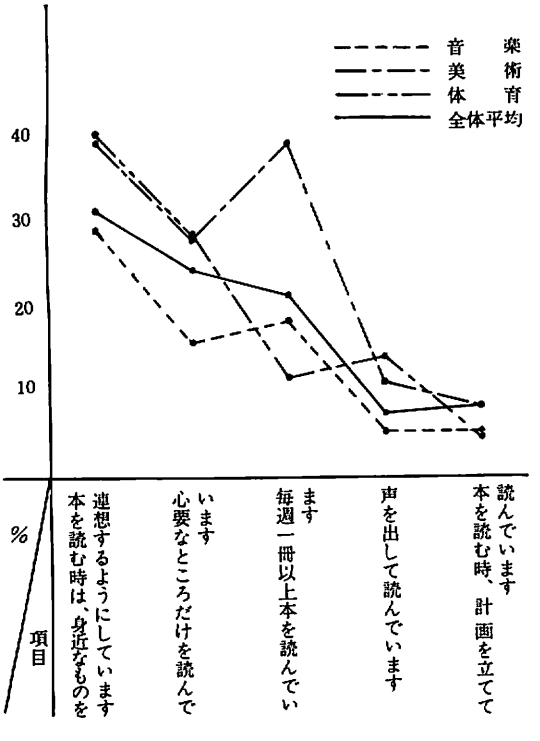


その他の科の学生が勉強に必要とする事柄は、画像よりは、文章の方が適しており、体育では、一般のスポーツ放送は学習にはあまり役に立たず、専門的な事柄は普通テレビ等ではなされていないためではないか。同じようにわかりやすくするための項としてとり挙げた「字の大きさを変えて」は、図表が入らないためか、体育・音楽とも前二項目に比べると率が高くなっており、音楽は美術を抜いている。最後に「録音して」にふれるが、これは、音楽・美術・体育何れも２％台と率が低いが、全体からみるとしていると答えた者が、音楽・美術・体育以外では数学と技術しかおらず、率は低いながら実技系科目の特色と言えると思う。

（６）本を読む。

本を読む事に関する項目は、「身近なものを連想」「必要なところだけ」では、体育と美術がほとんど同じ率で、音楽がそれよりも10％位少なくなっている。「毎週一冊以上」では、美術が他の科に格段の差をつけている。体育は、前二項目ではトップだったが、ここでは率がずっと下がっている。

（グラフ⑦）



「声を出して読んでいます」「計画を立てて」は、ほとんどが10％未満となっている。このように見てくると音楽がほとんどの項目で下位を占めていることが目につく。これは本を読むの項目以外では見られなかった現象で、音楽の学生は、他の学習では平均以上によくやっているが、読書に関してはあまり積極性がないと思われる。

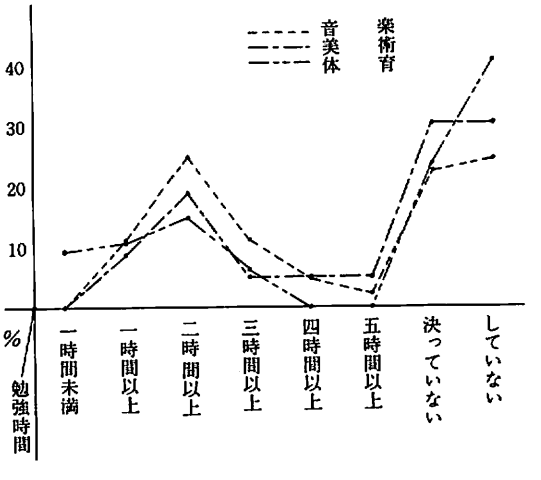
４．音楽・美術・体育等の授業時間外での学習
——質問Ｃの解答に基づく考察——

（１）時　間

授業時間外での学生の学習時間を調べると、アンケート総数508人中、少しでもしている者も含めて、している者は233人で、平均時間１～２時間である。中には24時間と答えている者もあるが、これは例外で、していると答えた者の中では２・３時間が一番多い。

科別に挙げると、音楽は45人中34人がしていると答え、１時間以上11.1％、２時間以上24.4％、３時間以上11.1％、４時間以上4.4％、６時間以上2.2％、決まっていない22.2％となっている。美術では、している者40人中28人、１時間以上7.5％、２時間以上17.5％、３時間以上５％、４時間以上５％、５時間以上2.5％、６時間以上2.5％、決まっていない30％、体育は47人中28人がしており、１時間以内4.26％、１時間以上10.63％、２時間以上14.89％、３時間以上6.38％、決っていない23.40％となっている。全部の科をあわせた率では、している者が43.9％であるのに対して、音楽75.56

（グラフ⑧）



%、美術70%、体育59.57%と全体平均よりもかなり高率となっており、実技系科目専攻の面目を保っている。

（２）学習方法

①　音楽専攻学生

音楽専攻の学生が授業時間外にしている学習の種類は、

• ピアノの練習	10人	37.0%
• 楽器の練習	2人	7.4%
• 声楽の練習	3人	11.1%
• その他練習	6人	22.2%
• 鑑　賞(レコード・コンサート)	2人	7.4%
• クラブ活動	1人	3.7%
• その他	3人	11.1%

となっていて、やはり音楽専攻の学生らしく音楽関係の項目が並んでいる。ピアノの練習は一番多く37%となっており、２位は声楽の練習の11.1%となっている。ピアノの練習は音楽の学習の中でも最も重要であるらしく、音楽・美術・体育以外の学生も17人がこれを挙げている。楽器の練習、声楽の練習、その他練習をピアノの練習とあわせると、音楽の場合21人、77.7%が実技練習をしていることとなり、学生が実技にウェートを置いていることがよくわかる。反面鑑賞は、レコード鑑賞、コンサート各々１人づつでこれを積極的に勉強としてとらえていないように思われる。レコード鑑賞は美術２人、他の科５人、コンサートは他の科２人がすると答えており、音楽の各々１人は、音楽専攻との立場からみると少なすぎる気もする。

②　美術専攻学生

美術専攻の学生が、しているとした学習は次のようなものである。

• 写　　生	2人	9.1%
• デッサン	2人	9.1%
• 鑑　　賞	3人	13.6%
• 読　　書	2人	9.1%
• その他美術関係	2人	9.1%
• 体育関係実技練習	5人	22.7%
• 音楽関係実技その他	3人	13.6%
• クラブ活動	3人	13.6%

上記のことから見ると、美術の場合、美術に関係したことを挙げた者11人、その他11人で、音楽のように専門のことばかりとはなっていない。又美術に関した事の中にも、実技は４人だけで鑑賞その他が７人となっている。学生が挙げた事柄の中に、自然に親しむ等、一般的な立場からすると、学習と言われないようなものまで入っており、美術の学生と音楽その他の科の学生との差を感じさせる。専門科目に関係しない項目には、トレーニング、ジョギングと言った体育関係のもの、ピアノ練習、レコード鑑賞等の音楽に関連したもの、課外活動、クラブ活動等と様々な対象が項目に挙げられて、学生が自分の専攻分野の他にも関心を持っていることを示している。

③　体育専攻の学生

体育専攻の学生が授業時間以外にしていると答えた。音楽・美術・体育関係の学習内容は次のようになっている。

• トレーニング	5人	23.8%
• ジョギング	1人	4.8%
• 本を読む	2人	9.5%
• 音楽関係実技練習	3人	14.3%
• 鑑　賞	1人	4.8%
• クラブ活動	9人	42.9%

体育の学生の場合、鑑賞、本を読む、音楽関係実技の練習の３項目を除くと後は全て体育関係の学習であると思われる。その中でもクラブ活動は９人も挙げており、重点がおかれていることがわかる。又、トレーニングの中で体育施設の利用を体育の学生だけが挙げており、専門に力を入れていることをうかがわせる。専門外の学習では、美術関係１、音楽関係３、その他１となっており、専門外のこともやっていることを示している。

５．まとめ

全体的に見て、音楽・美術の学生は、平均よりも熱心に学習しているといえるが、その中にもやはりよくしているものとそうでないものがあり、どちらかと言えば音楽は、学校での学習に関するものでよくなされているものが多く、美術は授業時間外の学習について目立ったものが多く見られた。

「調べる」という項目を見ると、何れも美術の方が、音楽よりも高い割合を占めている。「メモを」でも調べるは美術、聞くは音楽が高く、これは「線や印」でも言え、読んでいる、覚えているは音楽、調べているは僅かではあるが美術が高くなっている。線や印でなく字や図を書くことは、ほとんど美術の学生が音楽よりも高い割合である。よくやっているもの上位10のうち、音楽が高いも

のは８項目あり、美術が高い項目は６位の「線を引いて」と９位の「辞書や事典を」の２つだけであるが、10位以下は美術の方が高くなっている。こうして見てくると、音楽の学生がよくしているものはほとんど同じ分野の内の手間のかからないもので、自主的に考えしなければいけないものは苦手のように見られるし、高校までの学習習慣が、他の学生よりも強く残されているとも言える。手間のかかることが好まれていないとの結果は、他の科にもあてはまるが、美術は他に比較すれば、よくやっていて、調べる、まとめる、書く等が他の科より高い割合である。体育は、全体的によくしている率が他の科よりも低くなっているが、これは科の特殊性と無関係ではないと思える。

次に音楽・美術・体育の学生が、授業時間外で、音楽・美術・体育の学習をどのようにしているかを見ると、各々自分の専攻分野に重点をおいて、学習しているといえる。その中でも音楽は、特にその傾向が強く、音楽以外の項目が１つも入っていないし、又実技傾向が非常に強くあらわれている。美術・体育はそれほど自分の専攻だけに片寄ってはいないが、体育は美術に比べれば、専攻の実技学習に熱心であり、美術の学生は、専攻の分野と言っても、実技だけでなく、鑑賞・理論等種種のことを挙げている。このことは、音楽や体育の実技が、客観的に優劣がつけやすいため、実技の力を向上させることを目標としやすいと思われるのに対し、美術では実技面を主観的にとらえがちなため専門の実技よりも、他の面に学生の関心が向きやすいのではないかと考えられる。音楽の実技面では、ピアノの練習が各科で挙げられていることも目をひくが、これはピアノが現在の教育で大きな役割を果している一つの現われではないか。

今まで挙げた項目には、一人で二・三の項目を挙げている者があったが、ほとんどは一人一項であり、又音楽のアンケート回答者45人のうち、実際に項目を挙げた者は25人、美術では40人中17人、体育では47人中19人となっていて、50％前後である。これを最初に述べた少しでもしていると答えた数と重ねると、約20％の者が、音楽・美術・体育の学習には、あまり熱心ではなく、約20％の者はしていないこととなる。

このようにみると、音楽・美術・体育の授業時間外の学習は、音楽・美術・体育専攻の学生においては、約６割の学生が１日に２・３時間以上していると思われ、他の学科の予習復習とのかねあいも考えると、よく学習していると言えるのではないか。